学園都市八王子の学生定住の現状分析と、新たな地域交流の提案 〜学生と地域の豊かな関係性を目指して〜

帝京大学経済学部寺川ゼミ 竹山 颯、西尾 真志、金森 雄一郎、小松原 颯、西沢 太一、村田 智輝 指導教員 寺川 隆一郎

1. 現状の学生定住@八王子

八王子市は21の大学・短大・高専を擁する「学園都市」である。学園都市の特徴として、18歳から22歳の進学による転入者が多い。しかし、八王子市の人口コーホート図(図1)を見ると、進学の時期である18歳から22歳の人口増(+9,400人)が就職等の時期である23歳から27歳の人口減(-5,364人)と28歳から32歳の人口減(-3,852人)でほぼ完全に相殺されており、多くの学生が卒業と同時に市外へ転出してしまっていることが推察される。その他の転入要因である、就職や育児というライフステージでの転入者数に目を向けると、33歳から37歳が+138人、38歳から42歳が+673人と大きな数字ではない。合計特殊出生率は年々減少傾向にあり、東京都の平均とほぼ変わらず(1.08(令和3年))、郊外にしては低い値が続いている。現状の趨勢が続くと、移行期には老年人口率が極端に高くなってしまう。これは自治体財政一つをとっても、社会保障費をはじめとする歳出増と、現役世代減少による歳入減というリスク要因である。これを少しでも軽減するには人口の世代間バランスを改善する必要がある。上記の通り、高等教育機関への進学は、八王子市の持つ若年転入人口獲得の切り札である。これをいかに定住に結びつけるかが問われている。

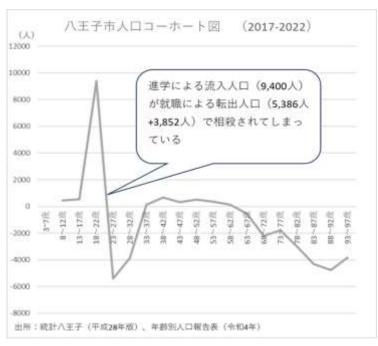


図 1

2. 現状の分析と考察

当事者である学生は、八王子市への定住についてどう考えているのだろうか。八王子市アンケート¹によると、八王子市に住みたくない理由として「八王子に移り住む理由が特にない」、「八王子に愛着がないから」という回答が約7割を占めている。つまり、進学により転入した学生の多くには八王子市に住む積極的理由(必然性・愛着)がないのである。

次に、八王子市の持つ特徴を浮き彫りにするため、人口コーホート図(図 2)と学生の定着率を表した表(表 1)を使い、八王子市を含めた「学園都市」を標榜する 5 自治体を比較する。これを見ると、八王子市は他の学園都市と比べてその定着率の低さが顕著であることが確認できる。京都市を除くと、八王子市は 18 歳から 22 歳の転入者が一番多いが、反対に学校卒業後の転出者も最も多いのである。

もちろん、自治体の規模や産業構造に違いがあるために、この原因は簡単には同定できない。しかしここでは仮説として、「学園都市」としての八王子市の特徴にその原因を求めてみたい。それは高等教育機関のキャンパスがいずれも町の中心地から離れた「郊外型キャンパス」であるということである。5つの学園都市の高等教育機関の立地図(図3)を比較すると、八王子市は高等教育機関のキャンパスが市の中心地を離れて広く点在していることが分かる。街の中心地にキャンパスが立地している他の学園都市では、商業地区と文教地区の間で自然と人が行き交い、大学周辺には学生目当ての商売を行う商店が集積した学生街が形成されている。しかし八王子市域の郊外型キャンパスでは、このような現象は見られない。学校の周辺は新興住宅地であることが多く、周辺地域が学生の求める利便性(衣食住やアルバイト、学び、遊び)を提供するのは難しい。その分、飲食も、学修に必要な書籍や文房具も、休憩時間を過ごす場所もすべて学校側がキャンパス内で提供することになり、学内で学生生活が完結してしまう。結果的にキャンパスは周辺地域から隔絶された学修するだけの場所になってしまっている。

学校周辺に居場所がないので、学生は買い物やアルバイト、友人との交流の際には、近隣のターミナル駅周辺の商業地に出向くことになる。そうすると自ずと自宅と学校、近隣のターミナル駅周辺の3点をスポットで巡回する生活になる。つまり、キャンパス周辺地域から隔絶され、近隣住民との交流もなく、また、学生同士の交流の際にも学校周辺に滞留しない以上、学生がキャンパスの立地する地域に愛着を持つようになるとは考えにくい。他方で、学生街があるようなキャンパスでは、キャンパスと周辺地域の境界は曖昧で、学生の求める利便性をきっかけに飲食店や下宿という居場所が形成され、学校周辺で過ごす滞在時間が増える。そしてそこで出会う学生と地域住民が何度も顔を合わせ、交流を深めることで継続的関係を築く結果、転入学生の間には地域への、周辺住民の間には大学への愛着が生まれる。

¹ 「八王子市学生意識・希望調査(平成 27 年度実施)」、「第 2 期はちおうじ学園都市ビジョンアンケート(令和 5 年度実施)」

²こうした大学と地域の有機的関係の有無が、八王子とそれ以外の学園都市の間での転入学 生の定着率に有意な差を生んでいると言える。

以上の分析を踏まえると、八王子市は、学生街のような歴史的に形成された社会関係資本が乏しく、それを醸成する場所がないからこそ、学生定住促進のためには、郊外型キャンパスならではの社会関係資本の形成を、政策的に支援する必要があると言えるだろう。

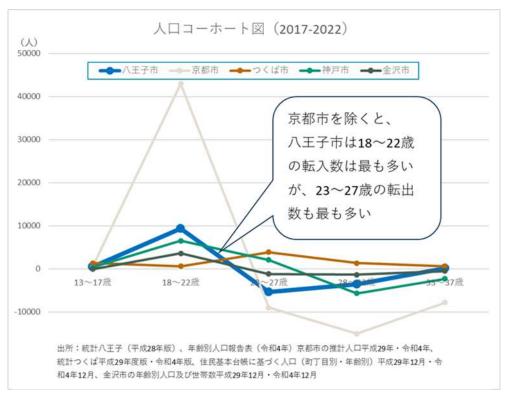


図 2

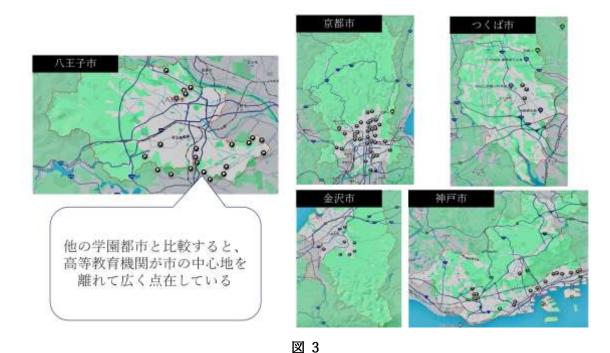
	八王子市	京都市	つくば市	神戸市	金沢市
定着率	42.70%	79.20%	135.50%	131.70%	67.10%

表 1

² 学生街が形成されている早稲田では学生と地域住民の共生関係ができており、コロナ禍で営業が厳しくなった飲食店を学生や卒業生が支援するなど、学生側からのその土地に対する愛着がうかがえる(三ツ村 2023)。また、慶応義塾大学と港区芝地区総合支所が運営する「芝の家」というコミュニティセンターは、多世代が交流できる場所として学生や地域住民に利用されている。毎月多種多様なイベントが開催され、学生と地域住民は気軽にお互いと交流できる場所として利用していることから、二者間の共生関係が形成されていることが分かる。交流を通じて学生はその土地に対しての愛着を育み、地域住民は大学や学生への愛着をもつことができるだろう(港区 2023)。

定着率の算出方法

1 - (23~27 歳の2022 年人口 - 18~22 歳の2017 年人口) / (18~22 歳の2022 年人口 - 13~17 歳の2017 年人口)



3. 現行の市による学生定住促進政策

八王子市による学生定住促進政策としては、令和4年度から実施されている「八王子市定住促進奨学金返還支援金事業」がある。これは「卒業後も5年以上住み続ける」等の条件を設けた上で、市が奨学金の返済を一部支援する制度である。この制度は仕事、利便性などすでに定住する必然性がある人にとってはその必然性を強化する措置といえる。しかし反対に必然性も愛着もない人、たとえば職場が市外の遠い地域で特に八王子に思い入れもない人を惹きつけるだけの効果は期待できない。また、将来の転出を前提にして制度を利用するフリーライドの懸念もある。

「学生定住」に直接焦点を当てているわけではなくても、市の施策には、学生と地域の交流を促進するのに一定の効果を期待できるものは多い。八王子学生委員会という学生団体は、市の支援も受けながら八王子市の魅力や情報の発信、学生同士や学生と市民の交流を目的に、学園都市づくりに貢献する活動をしている。広報雑誌の作成やイベントの運営・企画、八王子市との協力、協働事業を行う中で、八王子市への愛着をもつようになる学生は一定数いるだろう。

若者施策一般に目を向けると、八王子市の認知度を高める取り組みとして行われている シティプロモーションでは、市内外の若年層をターゲットとし、八王子市に愛着をもって住 んでもらえるような街づくりが推奨されている。 このようにすでに八王子市は、学生に愛着をもってもらえるように、様々な事業に取り組んでいる。しかし、前述の八王子市アンケートの結果や学生の転出数を見ると、まだその成果は不十分であると言えるだろう。そのため、現行の施策に加えて、さらに学生が市民や行政と交流するきっかけ作りが必要である。

4. 展望と提案

上述の通り、進学を機に八王子市に転入してきた学生に対する、地域への愛着の薄さへの手当が必要だと考えられる。必要なのは、現状の八王子の郊外型キャンパスにおいて乏しい学生と近隣住民との交流の機会である。その理由は、端的にキャンパスが周辺地域から隔離され、当事者である学生にも近隣住民にもお互いに関わり合う理由が現状は見当たらないからである。逆に言うと、関わり合う積極的な理由があることを提示し、またそれを満たすような交流の機会を用意すれば、学生街とはまた違ったかたちで地域と大学の間での継続的な交流が生まれる可能性はある。

まず、郊外型キャンパスに通う学生に目を向けよう。2節で指摘したように郊外型キャンパスは周囲から隔離され、すべてが学校の管理下にあるため、そこでの学生生活は、学生にとっては裁量や選択の余地に乏しい、閉塞感に満ちたものになりがちである。強制が増すと人は本能的に自由を求めるようになる。よって、郊外型キャンパスの学生には、管理されない場所での主体的な学習への潜在的欲求が高まる傾向があると言えるだろう。つまり、学生の「必然性」の一つである「学び」の面で、郊外型キャンパスの学生には、学校の過度な管理から距離を取るために、学校の「外」に出る理由があるのである。

次に、郊外型キャンパス周辺住民である。高度成長期に開発された新興住宅地であるため、郊外型キャンパス周辺の住宅地は、敷地面積や日照、緑、静謐さといった「良好な住環境」の面では充実しているが、住民同士が交流するきっかけになるような飲食店や劇場、娯楽施設といったいわゆる「サードプレイス」がほとんど見られない。買い物や娯楽はターミナル駅周辺に自動車で移動して済ませる生活では、継続的に住民同士が交流するきっかけがなく、結果的に、社会関係資本が十分に形成されない傾向が認められる。高齢化や人口減少に伴う地域課題に対処するためにも、社会関係資本を形成する必要は高まっていると言えるだろう。

つまり、学生側は「自由な学び」を実践できる学校とは別の場所を求めており、地域住民側は人びとが交流をするきっかけとなる「サードプレイス」を求めている。大学周辺地域に人びとが集まって活動できるような「場所」が求められているのである。この需要を満たすものとして、私たちは「大学発エクステンションゼミ」という構想を提案したい。

「大学発エクステンションゼミ」構想では、学生が大学での学びで面白いと思ったものを 学外に持ち出し、地域の人に参加をしてもらうことで、学びを新たに展開させる。エクステ ンション活動とは、地域住民をはじめ、誰でも参加できるように学びの場を開放して、主に 公開講座を行う大学の地域貢献活動である(帝京大学では「帝京ライフロングアカデミー」、 中央大学では「クレセント・アカデミー」など様々な大学がエクステンション活動を行っている)。このような従来のエクステンション活動とは違い、大学発エクステンションゼミでは、普段学校では「教えられる」立場に甘んじている学生が地域住民を巻き込んで学び合う会を自ら主催し、さらに学内に地域住民を呼び込むのではなく学外に学生たちが出向くという点で、通常の「学び」を逆転させるのである。コミュニティセンターや貸し会議室といった、大学の管理下にない場所で実施することで、学生はより自由に学びを展開できる。また、地域住民の方の参加を仰ぐことで、教員や大学に統制された教室内とはまた違った展開を期待でき、その知的興奮は学びを充実させる。さらには、学生自身が運営することの緊張感は、学びの質を高められるだろう。

題材はそれこそ自由であるが、専門的知識を必要としないワークショップのようなもの であれば、学生だけで十分に運用できる。もし専門的知識が必要になりそうであれば随時、 教員に掛け合って協力を仰げば良い。地域住民側としても、学校が主導する受動的な従来の エクステンション講座と違い、学生目線というフィルターが一度かかった活動であるから、 下準備や予備知識をそれほど必要としないという意味で参加のハードルが低く、参加しや すい会となるだろう。また、どうしても商店や娯楽施設を新設しにくい住宅地であるため、 こういった「学び」を主題としたかたちでの「サードプレイス」は、学生との交流に限らず、 地域の人びと同士が会話するきっかけとしても一定の需要が見込めるのではないだろうか。 なお、この「エクステンションゼミ」は、その参加へのハードルの低さから行政にもメリ ットを見込める。行政の課題の一つは、市民の声を議会に限らず、さまざまなルートから収 集し、おおよその市民の「一般意志」を継続的に確認しつづけることにある。たとえば、こ のエクステンションゼミは、特に参加に条件もないので、市職員も立場を離れて活動に参加 すれば、「学び」を得られるだけでなく、学生・地域住民・行政という3者間で本音で話せ る関係を築くことが期待できる。そうなると、それは市政に新たな視点を取り入れるきっか けにもなるだろう。この行政の参加は市が策定した「八王子未来デザイン 2040」の中にあ る「共創」の考えとも親和的である。学生や市民、行政という異なる立場の人たちが、対話 を通して八王子市の抱える様々な問題に対して共に考えるきっかけづくりとしても、大学 発エクステンションゼミは有効であるだろう。

このように、郊外キャンパス学生と地域住民が交流する必然性を用意する仕掛けを支援 していくことが、時間はかかるが、転入学生に地域への愛着を育むことに寄与するだろう。 それが長い目で見ると八王子市への学生定住の増加につながっていくのではないだろうか。

【参考文献】

八王子市, 2017, 「はちおうじ学園都市ビジョン(平成 29 年版)」, 八王子市ホームページ,(2023 年 1 月 23 日取得,

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/002/a951649/001/p031707_d/fil/gakue ntoshi_vision_honpen.pdf) .

金沢市, 「年齢別人口・世帯数【改正後】(平成 29 年)」, 金沢市ホームページ,(2023 年 11 月 1 日取得,

https://www4.city.kanazawa.lg.jp/material/files/group/3/gbrt42999.xls).

金沢市, 「年齢別人口・世帯数【改正後】(令和4年)」, 金沢市ホームページ,(2023年 11月 1日取得,

https://www4.city.kanazawa.lg.jp/material/files/group/3/gbrt50412.xls).

京都市, 「推計人口 年齢別データ(平成 29 年)」, 京都市ホームページ,(2023 年 11 月 1 日取得,

https://www2.city.kyoto.lg/sogo/toukei/Population/Data/Estimate/Each_Age/Each_Age_2 017.xlsx) .

京都市, 「推計人口 年齢別データ (令和 4 年)」, 京都市ホームページ,(2023 年 11 月 1 日 取得,

 $\label{lem:https://www2.city.kyoto.lg/sogo/toukei/Population/Data/Estimate/Each_Age/Each_Age_2~022.xlsx)~.$

神戸市, 2023, 「住民基本台帳に基づく人口(町丁目別・年齢別)」, 神戸市ホームページ,(2023年11月1日取得,

https://www.city.kobe.lg.jp/a47946/shise/toke/toukei//jinkou/juukijinkou.html).

神戸市, 2023, 「神戸市と大学等との連携の取り組み」, 神戸市ホームページ, (2023 年 11 月 1 日取得,

https://www.city.kobe.lg.jp/a05822/shise/kekaku/kikakuchosekyoku/college/index.html) . つくば市, 「統計つくば(平成 29 年)」, つくば市ホームページ,(2023 年 11 月 1 日取得, https://www.city.tsukuba.lg.jp/material/files/group/21/ToukeiTsukuba_2017_2.pdf).

つくば市, 「統計つくば(令和4年)」, つくば市ホームページ,(2023年11月1日取得, (https://www.city.tsukuba.lg.jp/material/files/group/21/toukeitsukuba2022.pdf).

八王子市, 2023, 「統計八王子(平成 28 年版)」, 八王子市ホームページ,(2023 年 11 月 1 日取得,

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/002/a951649/001/p031707_d/fil/gakue ntoshi vision honpen.pdf).

八王子市, 2023, 「八王子市年齢別人口報告表(令和 4 年 3 月版)」, 八王子市ホームページ,(2023 年 11 月 1 日取得,

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/hachiouji/jinko/003/p030701 d/fil/0403nenreibetu.pdf

) .

八王子市, 2022, 「少子化の現状」, 八王子市ホームページ, (2023年11月1日取得,

htttps://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kosodate/011/0005/p001121.html) .

八王子市, 2023, 「令和 5 年度八王子市定住促進奨学金返還支援事業のご案内」, 八王子市ホームページ,(2023 年 11 月 1 日取得,

htttps://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/shimin/002/a9516649/002/p032523.html) .

八王子市,「主な市の若者施策」,八王子市ホームページ,(2023年11月1日取得,

https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/kosodate/011/002/001/p025038_d/fil/2_0611_2 siryou.pdf) .

「金沢市」, ウィキペディア,(2023年11月25日取得,

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%87%91&E6%B2&A2%E5%B8%82).

「京都市」, ウィキペディア,(2023年11月25日取得,

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%AC%E9%83%BD%e5%B8%82).

「つくば市」, ウィキペディア,(2023年11月25日取得,

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%81%A4%E3%81%8F%E3%81%B0%E5%B8%82).

三ツ村崇志, 2023, 「早稲田大学の学生街カルチャーに危機感「商店街は大学の外にある"キャンパス"だった」」, BUSINESS INSIDER, (2023 年 12 月 22 日取得,

https://www.businessinsider.jp/post-265093) .

八王子学生委員会, 八王子学生委員会ホームページ,(2023年12月22日取得,

https://hachigaku.jp).

中央大学,「クレセント・アカデミーについて」,中央大学生涯学習講座 クレセント・アカデミーホームページ,(2023 年 12 月 23 日取得,

https://www.chuo-u.ac.jp/crescent/about/) .

帝京大学,「2022 年度前期公開講座帝京ライフロングアカデミー」, 帝京大学ホームページ,(2023 年 12 月 23 日取得,

https://www.teikyo-u.ac.jp/event/2022/0827) .

港区, 2023, 「「芝の家」の紹介」, 港区ホームページ, (2023 年 12 月 23 日取得,

https://www.city.minato.tokyo.jp/shibachikusei/shibanoie.html).